

発掘現場等作業見学会伊勢原市No.71 遺跡（栗窪地区）

内 容： 普段の見学会ではあまり時間を割くことができない発掘調査の手順や方法を中心に紹介する見学会
日 時： 1月15日（土）※小雨決行。荒天時は翌日16日（日）に順延。
時 間： 午前の部：10:00～11:30 午後の部：13:00～14:30
場 所： 伊勢原市栗窪
（財）かながわ考古学財団伊勢原市No.71 遺跡（栗窪地区）発掘調査現場
交 通： 小田急小田原線「伊勢原」駅北口より神奈川中央交通バス伊74系統田中・東海大学病院経由愛甲石田駅行「東海大学病院」バス停下車徒歩15分
小田急小田原線「愛甲石田」駅より神奈川中央交通バス伊74系統田中・東海大学病院経由伊勢原駅北口行「東海大学病院」下車徒歩15分
※公共交通機関をご利用ください。
費 用： 無料
申し込み： 必要ありません
問い合わせ：前日まで（財）かながわ考古学財団 野庭出土品整理室 電話 045-842-9888
当 日（財）かながわ考古学財団 伊勢原市No.71 発掘調査事務所 電話 090-8047-4038

公開セミナー「発掘された木器からわかること」

平成22年度東京・神奈川・埼玉埋文化財関係財団普及連携事業

日 時： 1月22日（土）
時 間： 開場9時30分 開会10時
会 場： さいたま市民会館うらわ（埼玉県さいたま市浦和区仲町2-10-22）
交 通： JR京浜東北線「浦和」駅西口下車徒歩7分
費 用： 無料
申し込み： 埼玉県埋蔵文化財調査事業団ホームページもしくは往復ハガキ（行事名・住所・電話番号・氏名・ふりがな 明記のうえ下記へ）
財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
〒369-0108 熊谷市船木台四丁目4-1
電話 0493-39-3955
<http://www.saimaibun.or.jp>

発掘現場等作業見学会伊勢原市No.74 遺跡（上粕屋地区）

内 容： 普段の見学会ではあまり時間を割くことができない発掘調査の手順や方法を中心に紹介する見学会
日 時： 2月19日（土）※小雨決行。荒天時は翌日20日（日）に順延。
時 間： 午前の部：10:00～11:30 午後の部：13:00～14:30
場 所： 伊勢原市上粕屋
（財）かながわ考古学財団伊勢原市No.74 遺跡（上粕屋地区）発掘調査現場
交 通： 小田急小田原線「伊勢原」駅北口より神奈川中央交通バス伊10、伊12、伊15 大山ケーブル行き「石倉」バス停下車徒歩5分
※公共交通機関をご利用ください。
費 用： 無料
申し込み： 必要ありません
問い合わせ：前日まで（財）かながわ考古学財団 野庭出土品整理室 電話 045-842-9888
当 日（財）かながわ考古学財団 伊勢原市No.74 遺跡発掘調査事務所 電話 090-2245-2875

発掘帖バックナンバーはホームページ（<http://www.kaf.or.jp>）からダウンロードできます。

お申し込み
お問い合わせ

（財）かながわ考古学財団 野庭出土品整理室
〒234-0056 横浜市港南区野庭町1660 E-mail: fukyu@kaf.or.jp
TEL: 045-842-9888（平日8:30～17:15） FAX: 045-842-9904

考古学財団発掘帖

かながわ考古学財団情報誌 通巻14号

平成23年1月11日発行



海老名市

河原口坊中遺跡（かわらぐちぼうじゅういせき）

河原口坊中遺跡は海老名市河原口に所在し、相模川、中津川、小鮎川が合流する辺りの東岸に立地しています。今回紹介する発掘調査は、相模川河川改修事業・自転車道整備事業に伴って行われている発掘調査です。この遺跡は弥生時代から近世にかけての遺跡で、これまでの調査で特に弥生時代から古墳時代にかけての住居跡やお墓などが多数発見されています。今回、集落の中を流れていた川の跡を発掘したところ、弥生時代に使われていたト骨（^{ぼっこつ}占いに使った鹿などの骨）や、柱などの建築材、木製農具などが出土しました。写真はト骨の出土状態です。

目次

- 発掘現場・出土品整理インフォメーション
鎌倉市：下馬周辺遺跡
秦野市：渋沢奈良郷遺跡
小田原市：石橋石丁場群玉川支群
- こんなものでたよ
伊勢原市西富岡・向畑遺跡出土漆塗り土器

- 行事案内 発掘現場等作業見学会
伊勢原市No.71 遺跡（栗窪地区）
公開セミナー「発掘された木器からわかること」
発掘現場等作業見学会
伊勢原市No.74 遺跡（上粕屋地区）

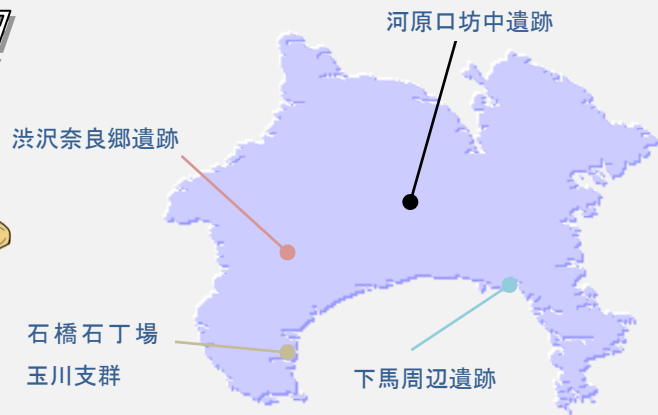


（財）かながわ考古学財団

〒232-0033 横浜市南区中村町3-191-1
TEL 045-252-8689 FAX 045-261-8162 URL <http://www.kaf.or.jp>

発掘現場・出土品整理 インフォメーション

ぼくは川尻中村遺跡(相模原市)のはちまき土偶はっちです。発掘調査や出土品整理中の遺跡の紹介をします。



下馬周辺遺跡(げばしゅうへんいせき)

(所在地)	鎌倉市	(時代)	中世、近世	(調査期間)	2010 年6月～
-------	-----	------	-------	--------	-----------

下馬周辺遺跡は鎌倉市由比ガ浜二丁目に所在します。若宮大路を鎌倉駅から約 700m 南に向かった東面で、現在の海岸線からは約 800m 北に位置します。鎌倉警察署の建設に伴う調査で、2010 年の 6 月から調査を開始しました。これまでの調査で中世から近世にかけての遺構・遺物が発見されています。近世以降面では、現在の若宮大路と平行する複数の溝状遺構や石組みの井戸、地下室が発見されました。中世は複数の遺構面があり、上面では 100 基をこえる土坑、ピット群などが発見されました。また、下面では、^{たてあな}堅穴建物と呼ばれる方形・長方形の遺構が 20 軒以上発見されています。最も大きい堅穴建物は一辺の長さが約 10m で、床面の壁際には切石がきれいに並んでいました。



堅穴建物全景(2010 年)

渋沢奈良郷遺跡(しぶさわならごういせき)

(所在地)	秦野市	(時代)	旧石器時代、縄文時代、弥生時代、奈良・平安時代、近世	(調査期間)	2010 年9月～12 月
-------	-----	------	----------------------------	--------	---------------

渋沢奈良郷遺跡は秦野市渋沢に所在し、標高 240m の丘陵尾根部に立地しています。調査は松田土木事務所による県道 708 号道路整備事業に伴い、2010 年 9 月から 12 月まで実施しました。調査の結果、江戸時代の溝と耕作跡、奈良・平安時代の円形土坑と耕作跡、縄文時代晩期～弥生時代初頭の^{ろあと}炉跡、縄文時代前期の集石・土坑(落とし穴)・ピットなどと縄文時代早期・前期・中期の土器や石器などが発見されています。

奈良・平安時代の耕作跡などの遺構は、この場所での畑作を示し、当時の具体的な土地利用の様子を捉えることができます。また縄文時代晩期～弥生時代初頭の炉跡は、神奈川県内でも類例が極めて少なく、貴重な発見例となるものです。



奈良・平安時代の円形土坑と耕作跡(2010 年)

石橋石丁場群玉川支群(いしばしいしちょうばぐんたまがわしぐん)

(所在地)	小田原市	(時代)	近世	(調査期間)	2010 年5月～7月
-------	------	------	----	--------	-------------

石橋石丁場群玉川支群は小田原市の南西に位置する石垣山一夜城から南へ約 1 km の地点に所在し、玉川により浸食を受け形成された谷の南斜面に立地しています。石橋石丁場は江戸城改築工事の際に幕府から各大名へ石垣工事の命令があり、これを受けた特に西国大名により石垣用材確保のため開発、運営されたと推定されている石丁場跡です。調査は広域農道整備事業(小田原湯河原線)に伴って実施され、当時の分割作業状況を示す資料が発見されました。分割作業は^{やあな}矢穴といわれる幅約 8 cm × 約 4 cm の長方形の穴を連続して^{れき}礫面に掘り、その矢穴より若干厚みのある矢といわれる石割の道具を矢穴に入れ、^{げんのう}玄翁で矢を叩いて矢穴に押し入れることで行っていました。分割された石材の小口面(石垣の表面になる部分)や側面には刻印が刻まれていることがあります。今回の調査で確認されたものは全て「十」と刻まれていました。刻印は丁場を運営する大名の^{かもん}家紋等を記号化したもの考えられていますが、「十」が何を示しているのかは、未だ判明していません。切り出された石は玉川沿いの道をつたって山から引き下ろされ、石舟と呼ばれる船によって江戸まで輸送されていたようです。



割石出土状況(2010 年)

こんなものでたよ

最近の調査で出土した注目される遺物の紹介コーナーです。

今回は伊勢原市西富岡・^{にしとみわが}向畑遺跡から出土した縄文時代の^{うるしめ}漆塗りの土器です。

口の直径約 14 cm、最大径 24 cm、高さ約 16 cm の約 4,000 年前の縄文土器です。褐色の透明漆を塗った後、渦巻きを基本とした立体感のある文様の出っ張った部分にベンガラ(酸化鉄を使った赤い顔料)を混ぜた赤漆を塗り、赤と黒に塗り分けています。発見した場所は縄文時代の谷底につくられた穴の中で、水に浸かっていたために漆が綺麗に残っていました。周辺ではクルミやトチの実がたくさん見つかり、木の実のアク抜きなどを行っていたと見られています。この土器は、縄文時代の人々が次の年の豊かな実りを願って埋めたのかもしれません。



漆塗り土器(西富岡・向畑遺跡出土)